

## 「信じる者になる。」 ヨハネ 24章 24～31節

先週は、櫻井先生によって、「信じるとは、身を委ねること。自分の所有権を基督に移す信託」と教えられました。

ただ、死んだ人が復活したと信じることは、なかなかできないことです。私自身の信仰は、自分が罪人であることに気が付くことから始まりました。自分の存在や成功、幸せを願い、自分中心に判断することが罪であることを気が付いて、その醜さを認めて悔い改めたのです。

キリストが神であるということは、その十字架と死を認めたので、すぐに信じられました。イエス様の復活は、神なので、そんなもの、できるだろうと判断しました。

しかし、自分が復活するということ、永遠のいのちを持つということ信じられるまでには時間が掛かりました。やはり、永遠のいのちを信じていないので、死が怖い、怪我や病気に對する恐れがあるということには自覚していました。それが、現実の生活に關する失敗や不始末に關する恐れと結びついていることも理解していました。事件・事故・暴力・攻撃などを恐れると、それが原因で強く歩めないことも意識しました。が、なかなか死を恐れないという段階まで達することはできませんでした。

それでイメージトレーニングを始めました。人から攻撃された時、暴力を受けた時、拳銃をこめかみにあてられて殺そうとされた時、にこやかに対処するというイメージトレーニングを続け、祈りました。

2年くらい経って、突然、死が怖くなくなりました。それから、恐れがなくなつたので、かなり堂々と生きられるようになりました。実際、やくざや酔っ払いに脅されても、毅然として対応できました。人生の諸問題に對しても、臆病にならずに対処しました。

「罪が死によって支配した」(ローマ5・21)とあるように、死の恐れは私たちを支配して罪を犯させます。「もし肉に従って生きるなら、あなたが死ぬことになりました。しかし、もし御霊によってからだ行いを殺すなら、あなたがたは生きます。」(同8・13)。「キリスト・イエスによるいのちの御霊の律法が、罪と死の律法からあなたを解放したからです。」(同8・2)。多くのクリスチャンが、この罪の問題に關して、きちんと対処しないで過ごすので、恐れや病氣、そして問題から逃げているのです。

また、気になることは、多くの人が自分の弱さや恐れを対処せずに抱えていて、自分はこのものだ、と諦めていることです。或いは、自分の弱さ、罪業を克服して御霊に、こしは月うらひこよつこ持こ、言、尺に

「人間の心を探る方は、御霊の思いが何であるかを知っておられませぬ。なぜなら、御霊は神の御心に従って、聖徒のために執り成してくださるからです。」(同8・27)。神に「まかしはききませぬ。真摯に祈るならば、聖霊が私たちの心に、そのままではいけないことを示してください。多くの方が完全に祈り不足なので、神に聞くこと、聖霊に示されることをできていません。」

今日の聖句、トマスが「私は、その手に釘の跡を見て、釘の跡に指を入れ、その脇腹に手を入れてみなければ、決して信じません」(26)と訴えたのは、理性的な人間としては当然なことです。信じていない、信じ切れていないのに、信じたふりをしているとその人生は破滅してしまいます。

イエス様は、トマスの率直な訴えに応え、復活の身体を現されました。それは、戸に鍵が掛けられていても通り抜けることができ、死ぬ前の瑕が残っていました。

罪人は、信じたふりをします。信じ切れていないのに、信じ切っているふりをします。神ではなく、人の目を気にしているのです。

私は、神を信じ信じた生活をしていきます。神を信じたふりをしている人は、すぐに見抜きます。そして、「信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」(27)と祈り見守ります。そういう人に「信じる。」と言っても、わかるものでもなく、信じることに、「身を委ねる、自分の所有権をキリストに託す」ことができるものではないことを知っているからです。悔い改めたふりをしたのですが、それを悔い改めたと思いついているので、だから、何気なく、誤魔化し、言い訳をし、この世の基準で生き、正当化をします。

「いのちに至る門はなんと狭く、その道もなんと細いことでしょう。そして、それを見出す者はわずかです。」(マタイ7・14)。

ふだん、何を考え、何をしているのでしょうか。会堂計画を、率直な人は私たちが死んだら、どうするの、と聞きます。跡継ぎは、基本的に神に任せています。それよりも、終末と再臨を信じているので、私たちは、この世に財産を残す方がもったいないと考えています。これまで、無謀だと思われることばかりしてきました。それは信託によることなのですが、この世を基準とする人には理解されないようです。

1. 信仰に生きるキリストの弟子の養成

主の弟子は状況に左右されず聖霊に聞き従い、神を信じ人を信じて人々の救いと解放をもたらす。十字架に死んで神と共に生きるとは、自分と人々の罪からくる咎を覚悟し信仰と希望と愛を持って福音の祝福の中に生きることである。キリストの弟子の養成こそ教会の使命である。

2. 真理と祈りと讃美に満ちた信仰生活の指導

聖書の教え、真理は人を自由にする。祈りは問題や悩みを解決し、神の御心を確認する。讃美は癒しと喜びと力を与える。教会はそれらを教え指導し、互いの交わりの中で模範を造り出していく。

3. キリストを頭として愛によって結び合わされた共同体の形成

教会には多種多様な人々が神によってこの世から召し出されてくる。この信者を整え、神への奉仕という使命を果たすように導くには、キリストの弟子として十字架を負い主に従う指導者層が確立されなければならない。整えられ愛し合い一致した教会こそ神の栄光が現され成長する。

4. 隣人に対する愛に基づいた執り成しと伝道の実践

神を愛する人は人をも愛し、行いを伴う信仰を持つ。真理を知らず罪と咎によって苦しんでいる人々を愛し、執り成し、福音を伝えることによってこそキリストは成長し、祝福される。

5. 地域と社会に貢献する魅力的な教会員の歩みと家族形成

教会と教会員の活動・事業・啓発運動を展開し、社会に影響を与えながら、同時に愛し合う家族を形成し、接する人々に福音を現していくことが、日本のリバイバルに必要であると私たちは信じる。

今週の聖書

ヨハネ 20:24 十二弟子の一人で、デドモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたとき、彼らと一緒にいなかった。

20:25 そこで、ほかの弟子たちは彼に「私たちは主を見た」と言った。しかし、トマスは彼らに「私は、その手に釘の跡を見て、釘の跡に指を入れ、その脇腹に手を入れてみなければ、決して信じません」と言った。

20:26 八日後、弟子たちは再び家の中におり、トマスも彼らと一緒にいた。戸には鍵がかけられていたが、イエスがやって来て、彼らの真ん中に立ち、「平安があなたがたにあるように」と言われた。

20:27 それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしの脇腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」

20:28 トマスはイエスに答えた。「私の主、私の神よ。」

20:29 イエスは彼に言われた。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ないで信じる人たちは幸いです。」

20:30 イエスは弟子たちの前で、ほかにも多くのしるしを行われたが、それらはこの書には書かれていない。

20:31 これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるためであり、また信じて、イエスの名によっていのちを得るためである。

John 20:24 Now Thomas, called the Twin, one of the twelve, was not with them when Jesus came.

20:25 The other disciples therefore said to him, "We have seen the Lord." So he said to them, "Unless I see in His hands the print of the nails, and put my finger into the print of the nails, and put my hand into His side, I will not believe."

20:26 And after eight days His disciples were again inside, and Thomas with them. Jesus came, the doors being shut, and stood in the midst, and said, "Peace to you!"

20:27 Then He said to Thomas, "Reach your finger here, and look at My hands; and reach your hand here, and put it into My side. Do not be unbelieving, but believing."

20:28 And Thomas answered and said to Him, "My Lord and my God!"

20:29 Jesus said to him, "Thomas, because you have seen Me, you have believed. Blessed are those who have not seen and yet have believed."

20:30 And truly Jesus did many other signs in the presence of His disciples, which are not written in this book;

20:31 but these are written that you may believe that Jesus is the Christ, the Son of God, and that believing you may have life in His name.